第11回地域再生大賞特集

コロナ禍 世代超え連携

ネットでつながり維持

長久保赤水顕彰会が開いた、史跡などを巡るガイドツアー＝2019年6月、高萩市高萩

大賞 佐賀未来創造基金（佐賀市）

「志金」や情報を循環

優秀賞 長久保赤水顕彰会（高萩市）

重文指定の推進力に

旭万新聞46紙と共同通信が運営する「第11回地域再生大賞―コロナ禍を越えて」の各賞が決まった。新型コロナウイルスの感染拡大は地域を直撃し、人口減や高齢化に加え、生活困窮世帯への対応や医療支援といった新たな課題を突きつけた。「誰ひとり取り残さない」「地域を未来に引き継ぐ」。立場や世代を超えて人びとが連携して難局に立ち向かい、支え合いの輪は広がる。

新型コロナウイルス感染が広がる中での選考作業となった「第11回地域再生大賞」。生活が苦しい世帯の子育てや医療現場、飲食店の支援に取り組む受賞団体が目立った。対面の活動が制限され、各団体はオンラインで仲間や他地域とのつながりを維持した。

▽地道な対話

大賞の「佐賀未来創造基金」（佐賀市）は市民コミュニティー財団としての実績に加え、新型コロナで厳しい状況に置かれた人への迅速な支援が評価された。当事者目線で市民団体や行政と対話を重ねてきたことが説得力をもたらした。

コロナ対応では、中国・四国ブロック賞「おかやま親子応援プロジェクト」（岡山市）関連の活動も際立つ。小中学生のオンライン学習支援、困窮世帯が人目を気にせず食料を受け取れる「公共冷蔵庫」はITをうまく活用した。

▽地域内外と連携

甲大賞（志摩市民病院）（三重県志摩市）は地域と共生しつつ赤字経営から脱した。近畿ブロック賞「三方よし研究会」（滋賀県東近江市）も地域包括ケアを目指し、地元の多くの関係者が意見交換を続けた。

ものづくりの地域は若い世代や消費地とつながり、再興を期す。もう一方の甲大賞「つばめいと」（新潟県燕市）は金属加工を中心とする産地で、インターン受け入れという手法が奏功した。

東海・北陸ブロック賞「RENEW実行委員会」（福井県鯖江市）は伝統工芸や地場産業の集積地で、工房開放イベントを発展させた。昨年はオンラインでも開催した。

▽魅力アピール

他の受賞団体もITやウェブサイト、地域の[illegible]の未来[illegible]ク賞「東[illegible]社」（[illegible]）は町[illegible]の青年[illegible]イト（SNS）で鮮やかに[illegible]ながら小[illegible]移住促進[illegible]

北海道・北ブロック賞の「BOOT」（福島県[illegible]）は西会津町[illegible]で地域の[illegible]・甲信越ブロック賞「小さな村総合研究所」（山梨県丹波山村）は[illegible]

今回は[illegible]を踏まえ[illegible]地視察と[illegible]通じた[illegible]た、第11[illegible]延べ5[illegible]

[illegible]

子どもの育ちや学び、災害復興、まちづくり、物流問題[illegible]やさまざまな地域課題の解決を目指す「市民コミュニティー財団」は2013年の発足から8年近くに、19年度までに400以上の団体を支援金助成対象で、未就学児の育ちを支援する活動を見守る、佐賀未来創造基金の山田健一郎代表理事（右から2人目）＝1月、佐賀県基山町

[illegible]機、助成総額[illegible]8400万円を超えた。

「お金を[illegible]るだけの存在にはならない。現場の困り事を社会に伝え、地域でヒトやモノ、寄付者の思いが込められた『志金』、情報を循環させる」。山田健一郎代表理事(43)は市民活動団体や行政、企業との意見交換で日々走り回る。時には水害の被災地で「泥かき」もする。

新型コロナ対応で苦しむ医療従事者に[illegible]は寄付[illegible]金を[illegible]面ならではのま[illegible]軟性とス[illegible]

市民[illegible]けていろ[illegible]の寄付を受け付[illegible]税を通じ[illegible]む、休眠[illegible]動に生か[illegible]分配団体[illegible]的に取り組む団体として、九[illegible]州各県のコミュニティー財団[illegible]立ち上げもサポートする。

高萩市出身で江戸時代の学者、長久保赤水（1717～1801年）は、日本で初めて経緯線のある全国地図を完成させた。「長久保赤水顕彰会（佐川春久会長）」は赤水の功績を広く伝えるため、幅広い活動を展開している。

赤水は、さまざまな地理情報を編集し、庶民に広く利用された日本地図「改正日本輿地路程全図」（赤水図）を作成した。子孫らが持つ関係資料6693点が昨年9月、国の重要文化財に指定された。

同会は1992年に設立。近年では史跡などの現地ガイドや学校での出前授業、赤水図のレプリカ作成、書籍や漫画の発行といった活動を展開し、重文指定の推進力となった。会員は現在68人と、この1年間で200人弱増えた。

赤水は日本地図を作っただけでなく儒学や天文・地理、農政学など幅広い分野に造詣が深く、当時の学者仲間との交友関係も広がった。重文指定を機に各分野の関係者や専門家が赤水についての研究を深めれば、知名度アップに向けたさらなる広がりが期待できる。

同会は、赤水が学校の教科書に掲載されることやNHK大河ドラマ化を大きな目標に掲げる。佐川会長は「実現に向けて顕彰会がこれからどのような活動をしていけば良いか、いろんな視点からの意見を集積しようと考えている」と話す。

今年も新たな書籍や漫画の発行などを控える。佐川会長は「重文指定の機会を捉えて、立て続けにやっていきたい」と意気込む。

（小原孝平）

第11回地域再生大賞受賞団体

【大賞】佐賀未来創造基金（佐賀市）

【甲大賞】つばめいと（新潟県燕市）▽志摩市民病院（三重県志摩市）

【地域の未来青写真九州・沖縄ブロック賞】東彼杵ひとことちゃの会社（長崎県東彼杵町）

【ブロック賞】BOOT（ブラット）（福島県西会津町）▽北海道・東北▽小左右村総合研究所（山梨県丹波山村）▽関東・甲信越▽RENEW実行委員会（福井県鯖江市）▽東海・北陸▽三方よし研究会（滋賀県東近江市）▽近畿▽おかやま親子応援プロジェクト（岡山市）▽中国・四国

【優秀賞】北海道・東北▽ハルボ不動産（北海道函館市）▽オコンペの自治会（北海道伊達市）▽田子町町機動隊（青森県田子町）▽茨城県[illegible]▽[illegible]オフィス（宮城県気仙沼市）▽[illegible]前駅商店街フォーラム実行委員会・北前船交流拠点機構（秋田県[illegible]）▽[illegible]広場▽やまが編わた（山形市）▽会津コンピュータサイエンス研究所（福島県会津若松市）▽[illegible]関東・甲信越▽長久保赤水顕彰会（高萩市）▽[illegible]WEB[illegible]行委員会（栃木県[illegible]）▽[illegible]なぎさコミュニティネット[illegible]▽鳥山町コミュニティ[illegible]ル・エフ[illegible]（[illegible]）▽おもて[illegible]（[illegible]）▽[illegible]Santa[illegible]（[illegible]）▽デリバリー[illegible]▽[illegible]子フェア[illegible]クの会（神奈川県[illegible]）▽[illegible]HB[illegible]uba・SDGs[illegible]（[illegible]）▽[illegible]SDC[illegible]（[illegible]）▽[illegible]・北陸▽テイクア[illegible]▽[illegible]YOYAMA[illegible]▽[illegible]・北前船交流拠点機構（秋田県[illegible]）▽[illegible]広場▽やまが編わた（山形市）▽会津コンピュータサイエンス研究所（福島県会津若松市）▽[illegible]関東・甲信越▽長久保赤水顕彰会（高萩市）▽[illegible]WEB[illegible]行委員会（栃木県[illegible]）▽[illegible]なぎさコミュニティネット[illegible]▽鳥山町コミュニティ[illegible]ル・エフ[illegible]（[illegible]）▽おもて[illegible]（[illegible]）▽[illegible]Santa[illegible]（[illegible]）▽デリバリー[illegible]▽[illegible]子フェア[illegible]クの会（神奈川県[illegible]）▽[illegible]HB[illegible]uba・SDGs[illegible]（[illegible]）▽[illegible]SDC[illegible]（[illegible]）▽[illegible]・北陸▽テイクア[illegible]▽[illegible]YOYAMA[illegible]▽[illegible]・北前船交流拠点機構（秋田県[illegible]）▽[illegible]広場▽やまが編わた（山形市）▽会津コンピュータサイエ